

これまでの経過及び決定事項



昨年度の作業

背景

- H27鬼怒川決壊
- ↓
- 直轄河川の取組・水防災意識社会の再構築
- ↓
- H28小本川氾濫
- ↓
- ↓ (国の助言)
- ↓
- ◆ 直轄河川の取組を県河川へ拡大

第1回協議会 (H29.1.31)

①現状の共有

- 現状の水害リスク情報
 - ・ 地域の現状、主な洪水被害、河川の整備状況
- 現状の減災にかかる取組状況
 - ・ 情報収集・提供、点検・巡視、訓練・防災教育

②減災に向けた目標

- 1 「逃げ遅れによる人的被害をなくすこと」
- 2 「氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること」

③目標に対する取組

- ◎ **目標の決定**
- ↓
- ◇ 直轄の取組方針
- ◇ 従来取組の継続
- ◇ 従来取組の拡充
- ↓ 取組の抽出
- ◆ **取組方針へ**
- H29～H33年度**

今年度の作業

第1回幹事会 (H29.5.30)

①ホットライン体制の構築

- ◎ **袋井水防区長と各首長とのホットラインの構築**

②課題の共有

- ◆ 抽出した課題の提示
 - ・ 地域特性、河川特性、水害リスク、現状の取組

③取組(案)の提示

- ◆ 抽出した課題に対する取組(案)の提示
- ◆ 課題と取組(案)の関係性の整理

具体的な取組内容の設定 (作業部会)

- ・ 担当国会議 (市町、県) (H29.10.5)
- ・ 作業部会 (全機関) (H29.12.21)
- ◇ 取組方針 (素案) の提示
- ↓ 各意見を踏まえ修正
- ◆ **取組方針 (原案) へ**

第2回幹事会 (H30.1.11)

- ◇ 規約改正 (案) の確認
- ◇ 具体的な取組河川の確認
- ◇ 取組方針 (原案) の確認
- ◇ 協議会の進め方の確認
- ↓ 各意見を踏まえ修正
- ◆ **取組方針 (案) へ**

第2回協議会 (H30.2.9)

今後概ね5年間で実施する地域の「取組方針」の決定



第1回 中東遠地域豪雨災害減災協議会 議事要旨

日時：平成29年1月31日（火） 10:00～11:30

会場：袋井土木事務所 3階大会議室

出席者：構成員 磐田市長・袋井市長・掛川市長・菊川市副市長（市長代理）・御前崎市長・森町長・静岡地方気象台長・浜松河川国道事務所長・危機管理部理事（防災対策担当）・危機管理局副局長（局長代理）・交通基盤部河川砂防局長・袋井土木事務所長
事務局 交通基盤部河川砂防局河川企画課・土木防災課・袋井土木事務所・危機管理部危機対策課・西部危機管理局

1. 挨拶

2. 議事

- (1) 中東遠地域豪雨災害減災協議会設立の背景、目的及び規約について
- (2) スケジュールについて
- (3) 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
- (4) 減災の目標及び取組について

3. 議事概要

- (1) 豪雨災害減災協議会設立の背景、目的及び規約について
豪雨災害減災協議会設立の背景、目的を設立趣意書により説明。規約について確認し、承認を得た。
- (2) 豪雨災害減災協議会の運営スケジュールについて説明
- (3) 現状の水害リスク情報や取組状況の共有について説明
- (4) 減災の目標及び取組について説明
今後5年間で達成すべき減災目標について、中東遠地域における大規模な水害に対し、「逃げ遅れによる人的被害をなくすこと」「氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること」とし、また各目標達成に向けた取組について説明し、承認を得た。

【出席者の主な発言内容】

- ・ 内陸部の洪水対策を講じているようであるが、台風時に特に海に面したところでは、台風が接近すると海面が上昇し、波が河川を1km以上上流まで遡上する。その時に集中豪雨等が重なると、河川の水が吐けないので、中流域も大事だが、下流域も堤防の嵩上げなど対策を講じるなどの配慮をいただきたい。

- 啓発の仕方について、5市1町の首長も職員も含めて頑張っていると思うが、その啓発は簡単に推進されるが、認識が深まらないところにジレンマを感じる。避難指示や避難勧告とはこういう情報であると繰り返し県民に対して啓発していくことを、共同歩調でやっていくことが重要である。
- 目標に対する取組内容について、県から市町へ情報収集要員を派遣するとあるが、被害が起こりそうなとき、具体的に県のどの部局から市のどの部局に人を送るのかということが、情報収集ということだけだと、極端なことを言えば市町にとってプラスにならない。
- 高解像度降水ナウキャストというサイトが気象庁ホームページにあり、250mメッシュの細かなもので、地図の拡大や、鉄道や道路の表示も可能であるため活用してほしい。
- 総論として理解していると思うが、省庁から矢継ぎ早に情報が降りてくる。それはそれで頑張らなくてはならないと思うが、全体をトータルしたものが基礎自治体の役割である。五月雨式に降りてきたものは、簡単に実務的に機能するまでタイムラグがある。そういうものを理解してもらいながら、一緒になって歩いて行ってもらえればというのが本音である。